

ICT ニュース 2022/9 月号

2022/9/20 発行 ICT/感染管理委員会

8 月末に 4 階病棟での集団感染が終息の兆しが見えてきたと思いきや、2 階病棟での発生となりました。患者・職員の経過もよく無事終息となりました。
皆さんの理解とご協力ありがとうございました。

ところで、皆さんも承知のように感染者の療養期間が短縮されたことと、今後新しいタイプのコロナワクチン接種が始まりますので、今回はその話題にふれてみましょう。



● コロナ感染症の隔離期間短縮について

◆ 新型コロナ感染者の新たな療養期間と外出制限の緩和



■ 外出はマスク着用などを条件に、短時間の食料品買い出しなどに限定 図 1

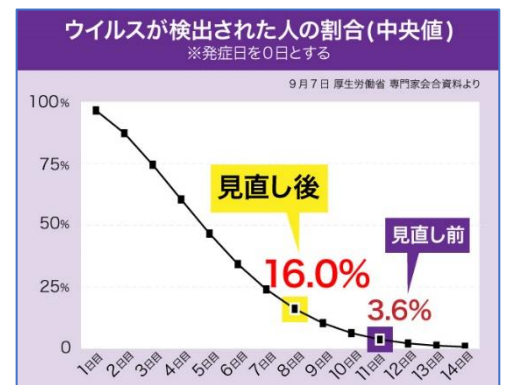


図 2

厚労省は、9月7日に新型コロナウイルスに感染した療養患者の療養期間を短縮しました。(図1)

但し、高齢者等ハイリスク者との接触、ハイリスク施設への不要不急の訪問、感染リスクの高い場所での利用や会食などを避けるように制限をかけていますし、入院・高齢者施設に入所している人は、これまでと同様となります。

“7日間”の根拠は、専門家会合で示されたデータでは、感染して症状が出たウイルス量を調べたところ、発症した日を「0日」とした場合、発症から7日から13日目までのウイルス量は、3日目までの量に比べて「およそ6分の1」に減少したとしています。(図2)療養期間は短縮されましたが、ウイルスそのものの性質が変わったわけではないので、7日目以降も、ほかの人に感染させるリスクがあるということを意識して行動することが求められます。

● オミクロン株対応ワクチンについて

「4回目のワクチン接種」は重症化リスクの高い人などに限定されていましたが、「オミクロン株対応ワクチン」は2回目までの接種を終えた12歳以上のすべての人が対象となります。

さらに、5歳から11歳の子どものワクチン接種について、接種を受けるよう努めなければならないとする「努力義務」の適用を明らかにしたうえで、2回目から5か月以上経過した子どもを対象に、3回目の接種を始める方針も示されました。

オミクロン株に対応したワクチンは重症化予防効果のほか、短期間となる可能性はあるものの感染予防効果や発症予防効果も期待されています。

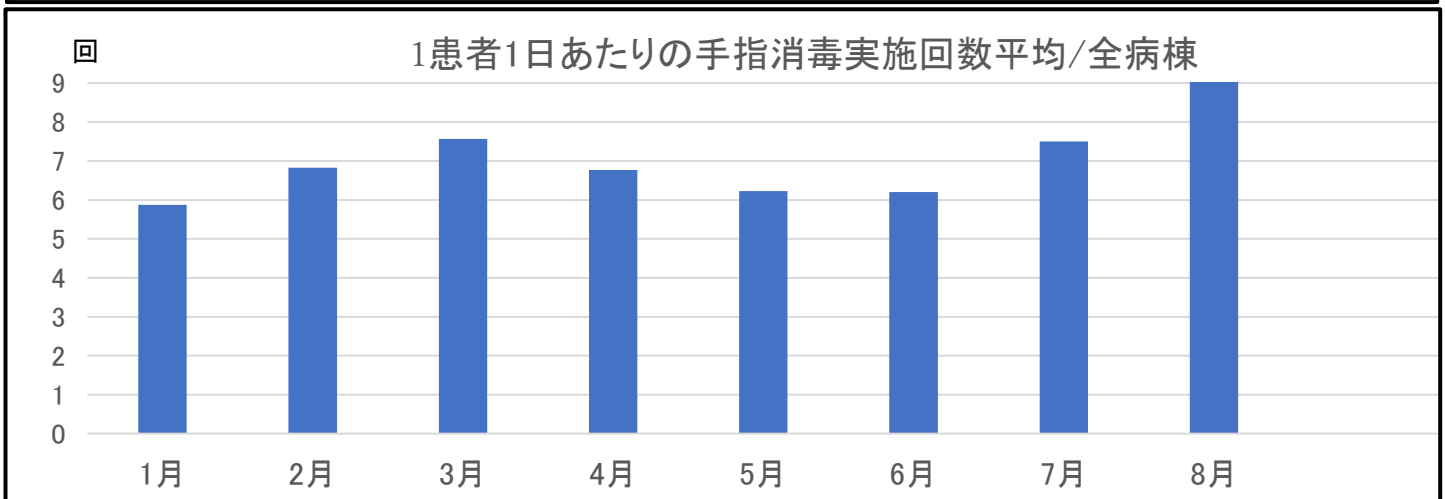
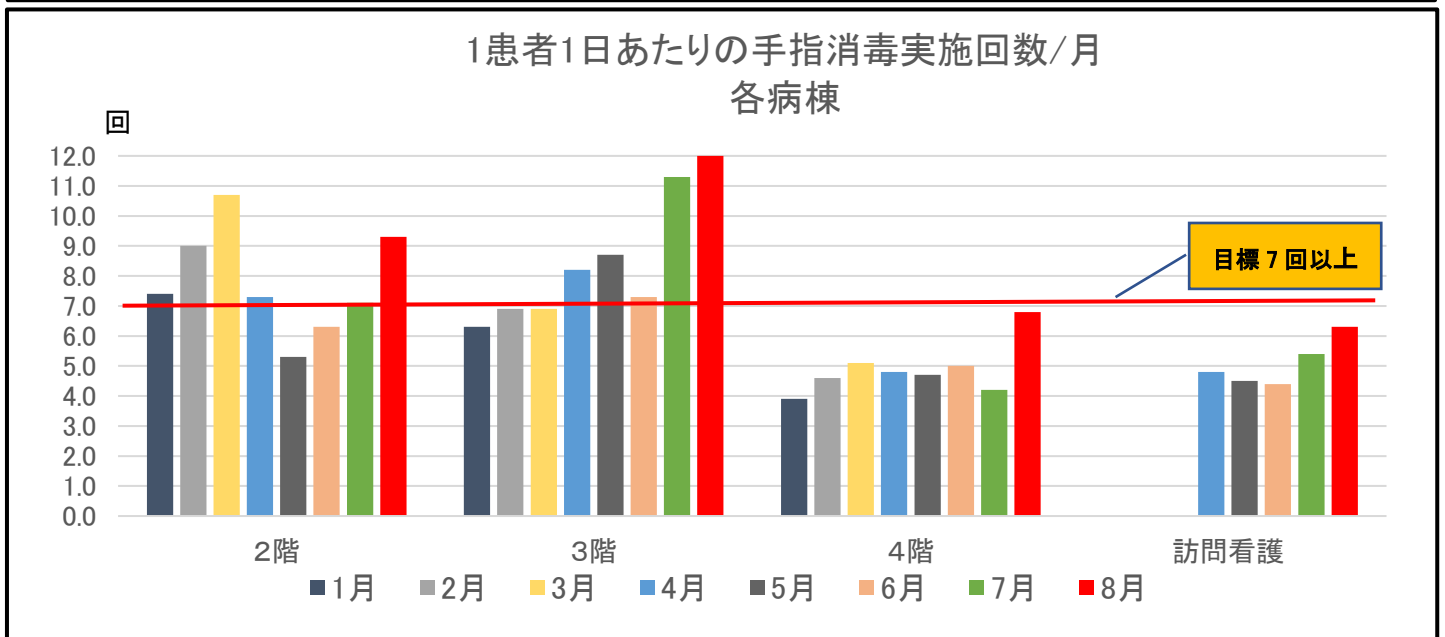
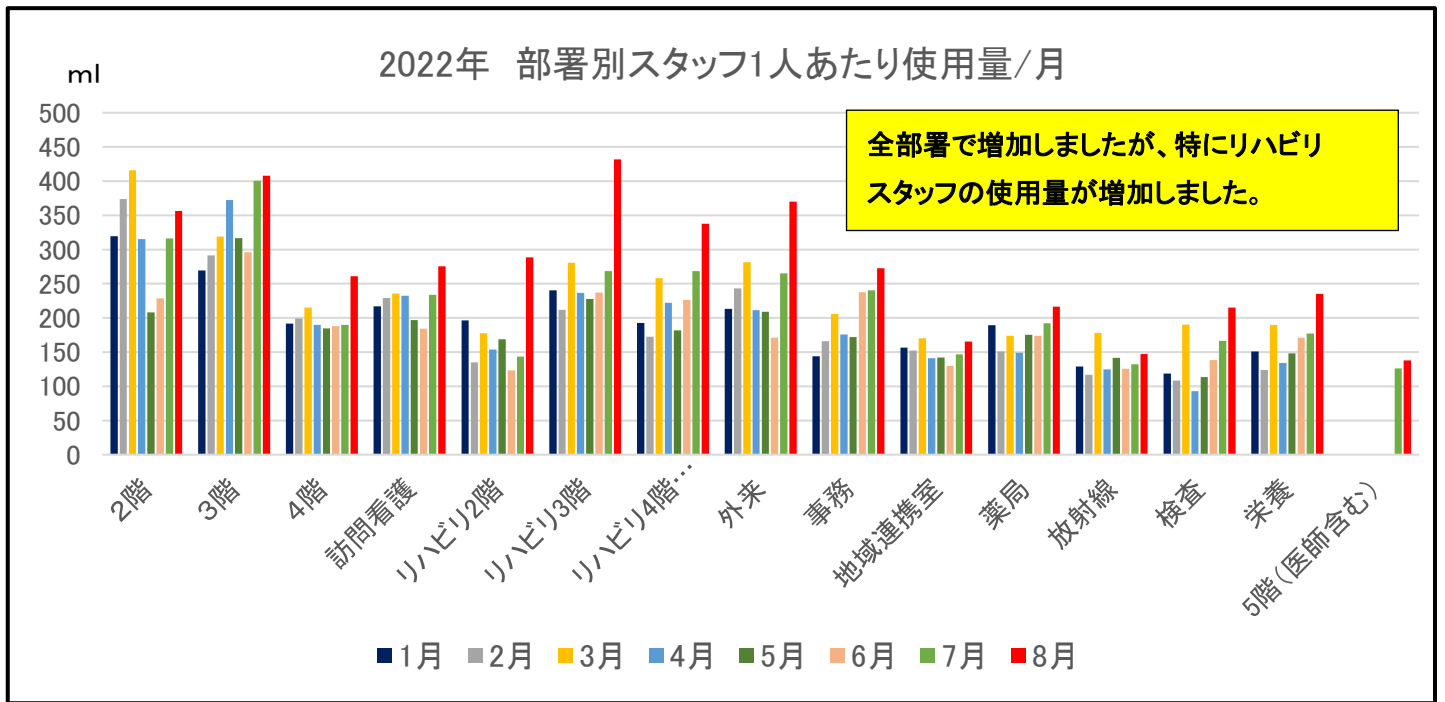
また、副反応の頻度は今までのワクチンの2回目、3回目の接種のときに出る頻度と同じ程度と考えられています。

但し、対応が遅ればそれだけ感染者数が増えるので、なるべく早くオミクロン株対応のワクチンを接種する必要があるようですが、前回の接種から5ヶ月の間隔を空けなければならないようです。

(今後、接種間隔の短縮を検討するようです)



★2022年 アルコール手指消毒剤使用量報告



* 使用量、実施回数ともに増加しました！増加が少ない部署は再度意識の見直しをお願いします。